

総合格闘技研究

The article of the Mixed Martial Arts

1K05B006

指導教員

主査 小野沢弘史先生

浅見 哲郎

副査 吉永武史先生

緒言

私は高校から7年間、レスリングをしてきた。高校、大学共に生活の中心をレスリングに捧げてきた程だ。レスリングがなぜ面白いかを考えたところ、格闘技としての本質がその答えだと気づいた。私はレスリングを通して格闘技じたいを好きになっていた。そこで大学では、格闘技研究を演習科目に選択した。そこで学んだ格闘技の数々は実に奥が深く、歴史のあるものばかりであった。卒業論文を作成するにあたり、格闘技研究の集大成として、私は総合格闘技を研究することこそが最もふさわしいと考えた。なぜなら、私自身が総合格闘技に強い関心を持っていたし、現在の日本では大みそかにも総合格闘技イベントがテレビ放送されるまでの人気となっている。それに加えて、私が今励んでいるレスリング競技から多くの選手たちが総合格闘技に進出している。その中で今も第一線で活躍する選手もいるし、なかなか勝ち星をあげられずに伸び悩んでいる選手もいる。そういった結果にはどのような背景があるのか、そして他の競技から総合格闘技に進出した選手たちはどういった試合を繰り返しているのかをアマチュアのレスリング選手でありながらも興味を抱いていた。この機会にレスリング選手にとって総合格闘技の舞台はどういったものであるかを調べたいと思った。それに、レスリング以外の格闘技からも、それをバックボーンとして総合格闘技に進出する選手が多く、他の格闘技が持つ特性や、総合格闘技との関連性にも注目した。総合格闘技とほかの格闘技が持つ関係を紐解くことにより、総合格闘技を極めることに近づけるのではないかと考えた次

第である。

序章

大学の演習科目において格闘技研究を履修してきたことから、その研究の集大成としてあらゆる格闘技の要素を含んだ総合格闘技の研究に取り組もうと考えた。総合格闘技を行う前に経験していた格闘技が選手によって違うため、そこにも着目して研究していく。

第一章 格闘技の歴史

格闘技にはそれぞれの歴史があり、そこから協議性や特徴が生まれてくるものである。総合格闘技は、古代オリンピックにも「パンクラチオン」として存在していた。しかし、残虐性が高まってしまい、死者の数も少数ではなかった。そのために、パンクラチオンは衰退の一途をたどった。近代オリンピックにも採用されなかったパンクラチオン。しかし、1900年代後半から、異種格闘技などを経て、徐々に総合格闘技の存在感が高まってきた。21世紀をまたぎ、総合格闘技ブームが到来していった

第二章 出身競技別視点から見る総合格闘技選手の戦績分析

現在までに、総合格闘技の試合には数多くの選手が出てきた。その選手たちはほとんどが総合格闘技をする前に、何らかの競技歴を持っている。その出身競技別視点から試合の戦績を見ると、どういったことが見えてくるのかを中心に総合格闘技選手の戦績を分析している。総合格闘技と

より密接した格闘技の出身者からデータを取って表にした。柔道、サンボ、レスリング、ブラジリアン柔術、打撃系格闘技、その他の出身者たちからは、その競技性から見える様々な試合内容の違いが見えた。

第三章 総合格闘技を極めるためには

まず、数多くの総合格闘技団体が現在存在しているが、そこから代表的な団体を選び、その団体間にあるルールの違いを比較していき、そういったルールの違いなどを踏まえて、試合における戦術の在り方を考えている。打撃が得意な選手の間合いを保つにはタックルに気をつけなければいけないし、寝技を主体にする選手の戦い方は、

相手の反応により生まれる隙を狙うべきなのだ。総合格闘技において最も必要となる寝技の攻防や、打撃技の活かし方、組みついてからの戦い方も考えている。

終章

総合格闘技において、ブラジリアン柔術の有効性がこの研究によりわかった。それに加えて、サンボや柔道、レスリングの組み技と、寝技になってからの打撃の技術の取得が必要と考えた。そして、総合格闘技が持つ、生涯スポーツとしての可能性にも気付くことができた。これからの総合格闘技の発展からますます目が離せない。